

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2592400028		
法人名	社会福祉法人 近江薫風会		
事業所名	スマイルグループホーム		
所在地	滋賀県米原市寺倉603番地の3		
自己評価作成日	令和4年3月14日	評価結果市町村受理日	令和4年10月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2592400028&amp;SCD=320&amp;PCD=25">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2592400028&amp;SCD=320&amp;PCD=25</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 滋賀県介護福祉士会		
所在地	滋賀県草津市笠山七丁目8番138号 滋賀県立長寿社会福祉センター内		
訪問調査日	令和4年8月19日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

弊事業所は、「地域の人々とともに、愛され、安心かつ信頼をされる社会福祉法人」を基本理念に、新しい福祉のスタンダードの構築を目指し、日々、実践いたすことと致しています。私たちがご提供させて頂くサービスは、私たちや関係者がそのサービスを利用した場合にも納得できるものであらねばならないと考えています。当施設では、ご利用者の方の尊厳の保持を最優先に位置づけることは基より、「暮らしの継続」を意識した、ゆったりと、豊かに、その人らしい生活をお送り頂けるよう、常にご利用者の目線に立って、情熱と気概を持って介護のプロとしてあるべき姿を追求していくことと致しています。また、施設運営では、コンプライアンスの保持とリスクマネジメントを最優先課題とし、安全・安心の充実に努めることと致しております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

スマイルグループホームは、目の前に農園作業で皆が育てている野菜や花・果樹園が広がり、その周りに田畑が連なっており、季節を肌で感じることが出来る環境の中にある。敷地内には特別養護老人ホームやデイサービスセンターも併設。宿直職員を含め大半の職員を地元から採用、地域との繋がりを大切にしている。先進のシステムを導入し、全居室のベッドに「見守り支援システム・眠りスキャン」を設置、トイレ誘導、転倒防止に役立っている。屋外には「見守りシステム」センサーで常時見守っており、安心して過ごすことができる。日々のデータや記録はデジタル化し、その掲示板により情報を全職員はすぐに知ることができる。週休3日制や夜間の2名体制等、職場環境も働きやすくなっており、職員はゆったりとした気持ちで利用者とおふれあえ、まさに福祉の新しいスタンダードを目指していた。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年に1回、内部研修にて法人代表が経営理念を説明し共有を行っています。また、理念の習熟度を図るテストを行い、浸透を図っています。職員室内に経営理念を掲示し、いつでも確認出来るようにしています。	全ての職員が法人の理念を理解し、日々利用者に関わる際には理念をより所としてサービスを提供している。また日々ケアの現場で、理念に適した対応であるか反省と確認をし合い、共有と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員、ご利用者と地域の防災訓練に参加したり、シルバー人材センターを通じて地域の方に宿直業務を務めて頂いたり、運営推進委員の自治会の方々と、地域と施設の情報交換を適宜行っています。	地元の方と一緒に畑作業を行ったり、地域の防災訓練に利用者と共に参加するなど、コトの様子をみながらできるだけ交流を持つよう努めている。地域のコンビニから毎月訪問販売に来てもらい買物での会話も楽しんで	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月第2第4土曜日に開設している「ちょっと相談所」では、電話等でも「認知症に関する相談や悩み事」をお受けしています。また、介護サービスに関心のある方は、併せてご案内しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業内容や施設の運営状況、ご利用者の状況等を報告し、ご意見、ご提案を聞かせていただき、その意見を全職員が共有してサービスの向上につながるように努めています。	HPで掲載されており書面開催もあるが、状況のみしできるだけ開催。行政の他に家族や複数の地域代表が参加。事業所からの報告とともに運営や災害等質問・意見・要望を受け活発に意見交換され議事録はHPで公開されている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、施設の状況報告書を手渡し、顔の見える対面でのコミュニケーションを行っています。また、運営推進会議にご出席いただき、事業所の状況や取り組みをお伝えしご意見を伺っています。	運営推進会議を利用して、市の高齢福祉課や地域包括支援センターの担当者に事業所の考え方、現場の実情等伝え、課題解決に向けた話し合いや対応に共に取り組み、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修でマニュアルを再確認し、正しい知識を習熟出来るように努めています。また、身体拘束排除委員会では、他のユニットと意見交換や情報交換を行い、正しいケアが行われているかを互いに確認しています。	人権擁護や虐待防止を含め、身体拘束排除に関する研修を定期的実施。参加者が報告書を作成し全職員が共有を図り正しいケアに努めている。利用者は自由にホームを出れ、センサーでキャッチしたり、掲示板ツールを使う等、法人全体で利用者を見守っている	
7		○虐待の防止の徹底	外部 内部研修に参加し、サービス向上		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部、内部研修に参加し、てこひんた事を参考にして、入浴時や更衣時に、体調等に異変が無いか、虐待の疑いが無いかを、全職員が確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部、内部研修で全職員が習熟を高め、その様な情報を必要とされている方には、情報を提供し、支援を行えるように努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、順を追って丁寧にご説明させて頂き、ご質問やご意見が無いかを都度伺っています。また、介護報酬改定等があった場合は、速やかにご説明の上同意を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に意見箱を設置し、ご利用者やご家族にご意見を頂けるようにしています。また、サービス担当者会議や毎月末の報告では、ご利用者の生活状況をお伝えし、ご意見を伺ってサービス向上に努めています。	ご家族には、月初めにたくさん写真が掲載された「スマイル新聞」を送付し利用者のホームでの様子を伝えたり、毎月1ヶ月の様子を電話で伝えて、常に問いかけ、意見や要望を伺いケアに反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を行い、職員一人ひとりが忌憚なく発言出来る場を設けています。また、年2回、施設管理者、施設長との面談を行い、意見や提案を個別に伝えられる場を設けています。	会議では職員の意見を否定せずに聞き、ソトで休みの職員には事前に意見を聞いている。コロナ禍でイベントや行事等に参加できない時など職員の意見やアイデアを取り入れ反映させ、議事録は皆で回覧して周知されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回のチャレフシードで、個々の努力や実績の把握に努めています。また、施設長は、職員の状況を考慮し、ONOFFがうまく出来るよう、働きやすい勤務環境や条件の整備(週4日勤務の実現等)に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員には「新入教育プログラム」のものと細かいOJT指導を行っています。既存職員については、日頃の勤務から個々の力量を把握し、レベルアップの為の外部、内部研修を受けられる機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で機会は少なくなっているが、外部研修等を通じて同業者と交流し、参考になることを積極的に吸収して、自施設のサービスの向上につながる様に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査で、ご本人のご意見に耳を傾け、生活スタイルをよく観察して把握し、その方に合わせた生活を送って頂けるよう、職員間で情報を共有し、ご本人に安心かつ信頼してお過ごし頂けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査や事前説明の際に、ご家族の困りごと、ご不安に思われていることが無いかが、必ずお聞きしています。また、ご要望に耳を傾け、安心して頂けるような関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族のお話を伺い、ご本人の生活歴や健康状態、認知症状を把握し、今何が必要なのかを見極め、その方にあったサービスが行えるように努めています。他のサービスが良い場合は、ご紹介しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設内で、職員がご利用者と共にお過ごし頂く中で、調理や掃除、季節の行事等と一緒に取り組んで頂き、生活の場として共に過ごすことで、自然と信頼関係が築けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、お電話にて日常のお暮らしぶりを報告させて頂き、その際には、ご家族からのご意見を頂き、共にご本人を支える、という関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍においても、WEB面会やお電話、感染対策を行ったうえでの面会で、ご本人にとって大切な方いつでも繋がりが持てるように努めています。また、日常の中で地域のお話を伺い、想起して頂いたりしています。	以前はデイサービス等施設内を行き来し、地域の方との交流が盛んだった。今はWEB面談を導入したり、頻繁に電話で会話を楽しんだりコロナ禍でも馴染みの方との継続的な交流ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者お一人おひとりの認知度や性格を考慮して座席の配置を行い、職員が仲立ちをするなどして、ご利用者同士がより良い関係が保てるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、ご家族からの相談やご要望があれば、可能な限り支援をさせて頂いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で、ご本人の希望や意向を把握できるように努め、言葉で困難な場合は、ご本人の仕草からくみ取り、対応できるように努めています。	利用者の言葉にしづらい思いを日々の行動や表情からくみ取り、何を望み・何をして欲しいのか、どうしたら楽しく暮らせるのか等皆で考えいろいろ試して思いの把握に努めている。家族からも情報を得てケアに活かしている	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前調査の段階で、ご家族や、現在ご利用されている施設等から聞き取りを行い、ご本人の生活歴や暮らし方を把握し、その暮らしが継続できるように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所されてからは、24時間シートや出来る出来ないことシートを活用して、その方の現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングは全ての職員が参加し、月1度のケアカンファレンスでは、課題やケアのあり方等を話し合い、介護計画を作成しています。、それをご家族に提示させて頂き、忌憚のないご意見を頂いています。	本人・家族の意向に加え、主治医や看護師を含む職員全員の意見を反映した介護計画となっている。現状に即し臨機応変に対応したプラン作成を行っており、理念に基づき、利用者主体の暮らしを反映した計画となっている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録やケアプランの実践チェック表を通して、日々の気づきや情報を職員間で共有し、ケアの見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族やご本人のニーズや課題を把握して、実践項目にすぐに取り入れる等、柔軟な支援が行えるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のお地蔵さまや地域の公園まで散歩をして頂き、その風景の中で季節を感じていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望をお聞きし、かかりつけ医の受診の支援を行っています。また、事業所の主治医へ情報提供を行うことで、連携を取って頂いています。	本人・家族の希望で全利用者が事業所の協力医を利用。他科への受診は基本的には家族送迎で「情報提供書」で連携する。病状によって受診困難な場合も、家族と話し合い適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診時には、自施設の看護師が同席し、ご利用者の情報の共有を行っています。また、体調不良の方がおられる時は、必要な処置についての意見を受け、適切な医療のサポートが受けられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、当施設の介護サマリーをお渡し、退院の際は、病院の看護サマリー、リハビリ情報を頂くことで、相互の情報共有を自測っています。その後も連絡を取り合うなどして、関係作りに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前説明や契約時に、重度化した場合における当施設の指針についての説明を十分に行っています。また、重度化された際は、主治医からのアドバイスや支援の方法を頂き、ご家族と十分な話し合いを行うように努めています。	看取りはしていないが、重度化した場合について、早い段階から事業所でできることを説明して方針を共有し、書面を交わしている。その後も担当者会議や状況変化に応じて家族と話し合いを繰り返し、安心して納得した最後が迎えられよう支援に取り組んでいる	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場内の内部研修を通して、急変や事故発生時の備えに関する知識を習熟し、またマニュアルの見直しも随時行って、見易い場所に掲示しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行い、夜間、発生の想定では、宿直職員の方にも参加して頂いています。また、土砂災害に対する訓練も年1回実施し、災害に備えています。	水害火災を含む災害対応マニュアルを整備。年2回の消火・避難訓練を法人全体で実施。夜間想定訓練も行う。消防署の方に避難の様子を見てもらいアドバイスを受けている。地域の防災訓練にも利用者と共に参加している	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりの性格を理解し、その方に 応じた接し方や話し方を工夫して対応を しています。また、プライバシー保護に関する 内部研修に参加し、習熟出来るように努め ています。	研修で学び、チェック表で実践を確認、日々 のケアの中での気づきは現場で注意しあ い、適切な言葉かけ、一人一人に応じた接し 方が実践されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、 自己決定できるように働きかけている	日常的に、各ご利用者とコミュニケーション をしっかりと取り、ご本人が自然とご自分の思 いや希望を表現しやすいように配慮してい ます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、就寝時間をはじめ、それぞれの優先 とされる事を大切に、お一人おひとりがご 自分のペースでお過ごし頂けるように努め ています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	その日着ていただく洋服は、ご自分で選ん で頂きます。ご自分で選択が難しい方 は、職員の方で毎日同じ洋服にならないよ う様に努めています。また、整容は離床さ れた後に常に行うように努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に 準備や食事、片付けをしている	日曜日の昼食作りでは、皆様のご希望のメ ニューをお聞きし、調理では、それぞれが出 来ることを協力されながら楽しく準備して頂 けるように努めています。	いろいろな方法を試行錯誤し検討した結果、 現在は特養の厨房で、栄養管理された食事 を提供し、日曜日の昼食を手作りしている。 畑で採れた野菜をどう料理するか利用者 とともに考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	日々の食事量や水分量を業務管理ソフトで 記録し、情報を職員間で共有することで、そ の方の食事の状況を把握し、食事形態や 水分摂取の方法を工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎月2回、歯科の先生と歯科衛生士による 口腔往診に来ていただき、口腔内の観察、 必要に応じてケアを行って頂いています。 毎日のお食事の前には口腔体操を、お食 事後は口腔ケアを欠かさず行っていま す。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、その方に合わせたトイレの声掛けを行っています。また失敗の軽減に努めることで自立支援につなげています。	排泄情報はパソコンで管理しており、把握がしやすい。8割の方が自立され、夜間ポータブルトイレを使用する方もいる。排泄の時間帯の把握により、使用パットを見直し、失禁汚染の軽減ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	業務管理ソフトの活用により、排便のパターンを、把握して支援し、併設施設看護師との医療の連携も図っています。また、お薬だけに頼らず、乳製品により腸内環境を整え、適切な運動に取り組んで頂いています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員と会話を楽しみながら、リラックスして入浴して頂けるように努めています。また、午前、午後とお好きな時間に入って頂けるよう、可能な限りご要望に応えられるように努めています。	入居時に希望の時間帯を聞いており、現在夜間入浴の方はいないが、希望に寄り添いゆったりとした雰囲気の中職員との会話を楽しみながら入浴している。果樹園のゆずをたくさん入れてのゆず風呂も楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりが、ご自分のリズムで自然に入眠出来るように、居室やホールの環境を整え、それぞれのタイミングで眠って頂いています。また、日中に休みたい方もおられるので、その支援も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用を全職員が理解し、ご利用者の症状の変化にいち早く気づけるようにしています。新たな処方や変更がある時は、申し送りや記録にて周知するように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意とされる事の把握に努め、日常生活の中で、創作物作り、障子張りや裁縫、お花の手入れ等を行っています。また、家事作業を積極的に行って頂き、生活の中での役割を持って頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、近くの公園や施設周辺まで散歩に行ってもらったり、中庭にて畑の作業やお花の手入れをして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で管理される方は、職員がお小遣い帳を記入し、ご自分で施設内の自動販売機や、施設内の移動販売でご利用いただく事で、金銭感覚の維持を図っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との電話やオンラインによる会話、手紙のやり取りが気軽に行って頂けるように、随時支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって掲示物を変えたり、季節の花を飾ることで、四季を感じて頂けるように工夫しています。また、空調や明るさ、音に対しても配慮し、ご利用者が不快に感じないような空間作りに努めています。	リビングの窓からは、自然豊かな山や田畑の景色が広がり、開放感があり、季節を身近に感じられる。エアコンの吹き出し口に風よけをつけるなど、快適な環境作りに配慮し、徹底した感染症対策により利用者の体調も安定している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングは、自席以外にもソファを設置し、お席での賑やかさから離れて、静かにゆったりとくつろいで頂けるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分で使用されていた物や、愛着のある物を自由に持ち込んで頂けるように配慮しています。居室の掲示物は、その方の目線に合わせて、いつでも目に入りやすいように工夫しています。	創作物を壁一面に貼ってある部屋や、家族の写真に囲まれている部屋など、その人らしい居室がある。各部屋の掃き出し窓には障子があり、年末には一緒に障子張りもしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境の中で、分かること、出来ること、が維持して頂けるように、居室の名前や、トイレ、浴室を表示し、日付表も分かりやすいように、手作りで工夫をしています。		

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	コロナ禍における外出支援において、今期の取り組みの中で、他者と接触しない形であれば、様々な外出行事が行えることが分かりました。ただ、コロナの流行の状況に応じて、適宜判断した上で実施していく必要があります。	ご利用者に喜んで頂ける外出支援を行っていきます。 新型コロナウイルスの感染状況を適宜見定めた上で実施していきます。	現状のオミクロン株によるコロナウイルスの流行が収束した際には、改めて外出支援に取り組んでいきます。判断基準として、法人内での面会制限(ご面会頂けない第3段階面会制限から、ベランダ、テラス等居室の外側からのご面会となる、第2段階ご面会制限への移行)を目安とします。	6ヶ月
2	49	引き続き、コロナ禍で季節の外出行事が限定される状況は続いている為、外の風景や景色の中で四季を感じて頂く事が困難な状況であります。外出が少ない事で、ストレスを感じていらっしゃる方もおられるように思います。	当施設の中庭にある畑や果樹園を利用し、季節の花や野菜をご利用者の方々に育てて頂きます。	ご利用者の方々に、季節の花や野菜の苗植えから日々の水やり、成長の見守り、収穫までを行って頂きます。また収穫した野菜は、昼食作りで料理をして頂き、召し上がって頂きます。花は、生け花やフラワーアレンジメントで楽しんで頂きます。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。

### 3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		取り組んだ内容	
実施段階		( ↓該当するものすべてに○印)	
1	サービス評価の事前準備	<input type="radio"/>	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者へサービス評価について説明した
		<input type="radio"/>	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		<input type="radio"/>	④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した(する)
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
2	自己評価の実施	<input type="radio"/>	①自己評価を職員全員が実施した
		<input type="radio"/>	②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		<input type="radio"/>	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		<input type="radio"/>	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
3	外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/>	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		<input type="radio"/>	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		<input type="radio"/>	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		<input type="radio"/>	④その他( )
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="radio"/>	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		<input type="radio"/>	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		<input type="radio"/>	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った(する)
		<input type="radio"/>	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った(する)
		<input type="radio"/>	⑤その他( )
5	サービス評価の活用	<input type="radio"/>	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		<input type="radio"/>	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		<input type="radio"/>	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		<input type="radio"/>	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		<input type="radio"/>	⑤その他( )